

ICTを活用した生活習慣病ハイリスク対策の共同事業

背景

生活習慣病ハイリスク者対策は、早期特定・早期対策が重要であり、事業主と健保組合との連携によって大きな改善効果が期待できる。一方で、**対象ごとの施策に対象者を誘う方法の検討は進んでおらず、多くの施策が参加率向上を課題としているが、参加率向上の支援が可能な民間事業者は少ない**。特に、事業主側の産業保健が脆弱な体制であることが多い中小規模の健保組合や小規模事業所を多く抱える健保組合においては、コストやノウハウ不足の観点から十分な対策が講じられていない実態が想定される。

事業実施の目的

代表組合であるすかいらーくグループ健保組合では、H29年度に実施したICTを活用したハイリスク対策の共同事業を通じて、効果的なハイリスク者対策における事業主との連携方法に関する示唆を得た。そこで、上記背景も踏まえ、本事業では特に中小規模の健保組合および小規模事業所を多く抱える健保組合を対象として、①**事業主との対話ツールを活用したコラボヘルスの推進**、②**ICT（スマホアプリ）を活用した効果的な介入の枠組み構築（全体業務フロー構築）**等に向けた手法検討を行う。

（→ 複数の異なる実態の健保組合で事業を行うことで、**業務・事務フローの効率化・標準化、対話手法のノウハウ・事例共有を目指す。**）

評価指標

各種文献等に基づき設定した以下目標指標について評価を行う。なお、評価に際しては、アドバイザーである東京大学の助言・指導を得る。

	測定内容	測定時期
アウトプット	コラボヘルス確立度：事業主への説明内容・回数、事業主の意識変化等	H30年10月～H31年2月
	対象者への情報宣伝活動量：案内方法および案内数（配布・掲載媒体、案内回数）	H31年2月
アウトカム	対象者のアプリ登録率：案内方法ごとの登録率を比較	H30年12月～H31年2月
	アプリ起動回数：登録者ごとの起動回数を比較	
	アプリ利用率：登録者ごとのアプリへの入力回数を比較	

期待されるメリット等

＜共同で実施することで期待されるメリット＞

- ✓ 様々な実態にある事業主毎に適した連携方法をノウハウとして蓄積し、円滑な保健事業への誘導を図ることができると共に、本事業における効果検証を通じてモデル事業として横展開が可能となる。
- ✓ ICTを活用した共同事業とすることで、同時期での一斉案内や再連絡が可能（効率化・コスト削減）。

＜事業の汎用性・発展性＞

- ✓ 多くの健保組合に共通して存在する課題（ハイリスク者への効率的な介入、事業主との効果的な連携等）であり、特に「データ分析に基づく健康課題の特定（介入対象者選定）」から、事業主との対話、介入対象者への案内実務まで、一気通貫で運用実務をサポートする事業に対する期待は高い。
- ✓ 今後、事業主別のスコアリングレポートを活用した事業主との対話を進める上でも必要なノウハウとなる。

事業実施スケジュール



8月 …第1回事業運営委員会開催
9月-11月 …データ分析・各種資料作成
10月頃 …事業主へ連携依頼
11月 …対象者へアプリ利用のご案内

コンソーシアムにおける実施体制

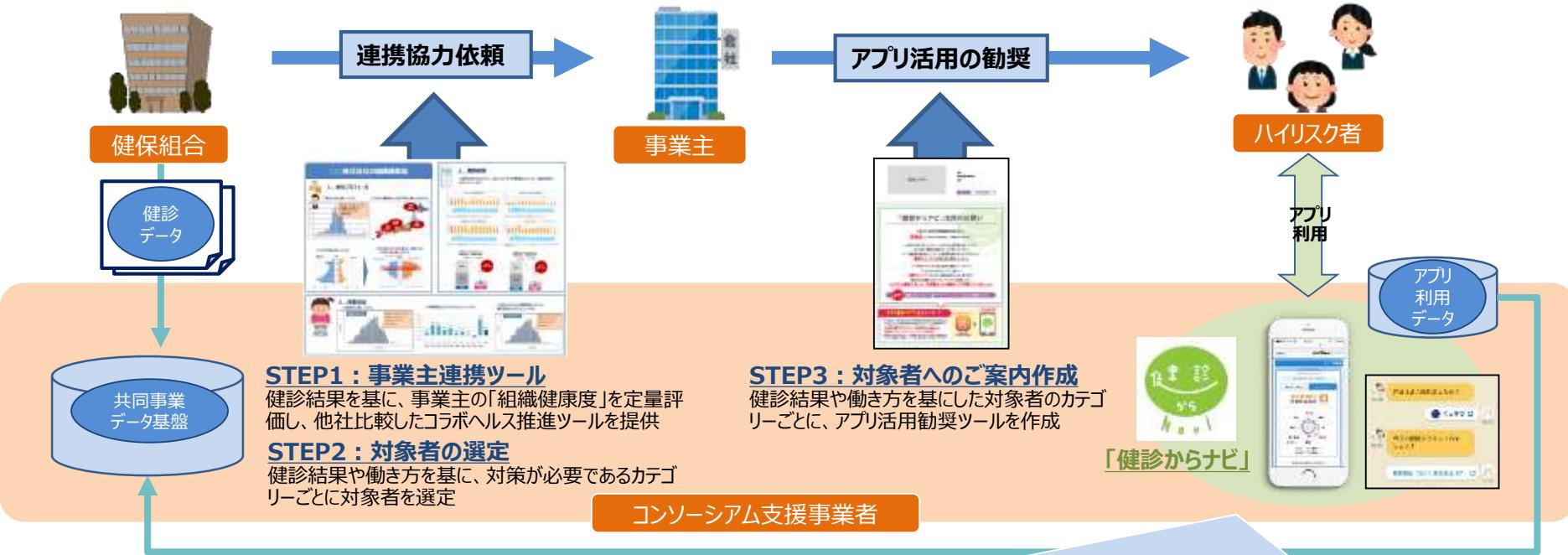


12月-1月 …アプリの利用
12月-3月頃 …データ収集・分析・報告書作成
2月 …第2回事業運営委員会

ICTを活用した生活習慣病ハイリスク対策の共同事業

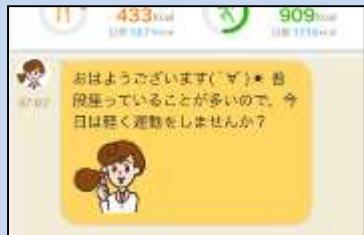
事業概要

事業概要 事業主別のレポート提供、介入対象者選定、介入プログラム提供、それぞれを単独で提供する民間事業者は存在するが、ノウハウ不足等を主因として、実務レベルで運用が回らないケースが散見されるのが実態である。そこで、**本事業では実際に円滑に事業を進めることができるよう、以下の通り、STEP 1～STEP 3までコンソーシアム全体において一気通貫でサポートする**。まずは、STEP 1～2において、参加健保組合が事業主から連携の協力を得られるための支援を実施、更にSTEP 3においては、介入対象者への案内を事業主の実態に併せた実務支援を行う。

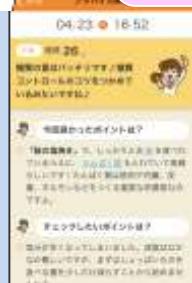


アプリで生活習慣改善意識を向上！

働き方や生活状況、健診結果に合わせて毎日のアドバイスやお声かけをします。



食事を写真に撮って登録すると、リアルタイムでアドバイスが届きます。



対象者に合わせた
行動目標を毎週
ご提案。



小さな目標達成を繰り返すことで、生活習慣改善とアプリの利用継続を促します。

受療が必要な対象者にはアンケートで受療状況を確認することができます。

